



【株式会社キナリ】 神奈川大学と「ゆず残渣」の皮膚有用性に関する研究を開始

～ 廃棄される「ゆず残渣」の可能性に着目、機能性とサステナビリティの両立を目指す～

株式会社キナリ（本社：東京都品川区、取締役社長：山本 理史）と、神奈川大学（学長：戸田 龍介）は、廃棄されるゆずの抽出残渣（ざんさ）が皮膚にもたらす有用性を科学的に解明することを目的に、2026年4月1日より共同での研究を開始いたしました。本研究は、委託先の神奈川大学 化学生命学部 生命機能学科 食品美容科学研究室（教授：野嶽 勇一）が中心となって進められています。

本研究は、同社が推進する植物由来原料の価値創出および研究開発の一環として実施するものであり、未利用資源である国産ゆず由来の残渣に着目し、皮膚細胞への影響等について科学的な検証および解明に取り組みます。



■ 研究の背景

ゆずは古くから私たちの暮らしに根づく、とても身近な存在です。その果実がもたらす効果として、香りの心地よさに加え、ビタミンCやクエン酸などが豊富に含まれるため、美容への有用性が期待されています。一方で、果汁や果皮の加工過程で生じる残渣は大部分が廃棄されており、未利用資源の有効利用が課題となっています。

そこで、株式会社キナリでは廃棄されているゆず残渣の化粧品原料化を推進するとともに、その機能性に関する検討を重ねてまいりました。本研究は、こうした取り組みをさらに深化させ、ゆず残渣が有する未解明の機能性を科学的に明らかにすることを目的としています。

■ 研究の概要

本研究では、ゆず残渣が皮膚に与える影響について、表皮や真皮を構成する皮膚細胞に対するゆず残渣の作用実験を行い、ゆず残渣に含まれる有用成分が皮膚に及ぼす影響を科学的に検証します。

また、ナリルチンやヘスペリジンなどを含む国産ゆず由来原料の機能性についても、多角的に評価を進めてまいります。これらの取り組みにより、現在に至るまで十分に解明されてこなかったゆずの新たな可能性を見出し、科学的根拠に基づいた価値の創出を目指します。

■ 両社コメント



神奈川大学 化学生命学部 生命機能学科
食品美容科学研究室
野嶽 勇一 教授

「ゆずは身近な素材でありながら、その機能性には未解明な部分が多く残されています。本研究では、これまで十分に活用されてこなかったゆずの残渣に着目し、皮膚を構成する細胞への影響を中心として、美容への活用の可能性を多角的に検証していきます。本研究を通じて得られる知見が、未利用資源の活用による新製品の開発や環境保全への貢献につながることを期待しています。」



株式会社キナリ
取締役社長 山本 理史

「当社ではこれまで、自然素材にこだわり、植物が持つ力を生かした価値のある商品づくりに取り組んでまいりました。ゆずもそのひとつであり、古くから親しまれてきた日本ならではの素材である一方で、搾汁過程で生じる残渣にはまだ十分に活用されていない、新たな価値があると考えています。本研究では、こうした未利用資源の機能性を科学的に明らかにすることで、さらなる価値創出につなげるとともに、持続可能な社会への貢献を目指してまいります。」

■ 今後の展望

本研究から得られた知見および成果は、スキンケア化粧品の開発にとどまらず、ゆず由来原料やサービスへの価値開発に応用し、幅広い領域での活用を目指します。未利用資源の可能性を見出すことによって、機能性とサステナビリティを両立した新たな価値へとつなげていきます。株式会社キナリは今後も自然の恵みを生かした研究開発を通じて、さらなる美しさを実現できる価値を創出し、新しい美しさのあり方を提案してまいります。

草花木果について



草花木果は、『植物由来成分』『肌へのやさしさを考えた無添加』『天然香料 100%』をコンセプトに掲げて、2001年に誕生しました。

雄大な自然の厳しい環境に適応してきた「草」「花」「木」「果」の生命力あふれる植物のちからを活かし、機能性と肌へのやさしさ、素材にこだわる自然派化粧品のブランドです。

【会社概要】

会社名：株式会社キナリ
所在地：東京都品川区東品川2-2-24
代表者：取締役社長 山本 理史
資本金：1,000万円
事業内容：化粧品の企画・開発・販売
URL：www.sokamocka.com

＜本リリースに関するお問い合わせ先＞

株式会社キナリ 〒140-0002 東京都品川区東品川2-2-24
PR・広報：岩田 / TEL：090-6392-6109
e-mail：etsuko-iwata@kinari.co.jp

＜お客さまからの商品に関するお問い合わせ先＞

キナリお客さまセンター：0120-47-8910
公式ブランドサイト：www.sokamocka.com